

鈴木明彦¹・圓谷昂史²：北海道焼尻島東浜海岸へ打ち上げられたメガネカスベの卵殻

Akihiko SUZUKI¹ and Takafumi ENYA² : Egg-capsule of the mottled skate, *Raja pulchra*, washed ashore on Higashihama Beach, Yagishiri Island, Hokkaido

北海道北部の日本海上には、天売島と焼尻島が存在する。このうち焼尻島は、主に新第三紀中新世の火山岩や火山砕屑岩から構成される（秦 1960）。本島では海食崖が発達するため、海岸は島の東側に分布しており、東浜海岸（北緯44°25′45″，東経141°25′22″）は、中礫～巨礫サイズの火山岩が主体をなす転石海岸である（図1）。

2013年9月1日に東浜海岸で、打ち上げられたエイ類の卵殻（図2）を採集した。卵殻の形態や計測方法については、石原ほか（2005）に従った。この卵殻の主部はほぼ長方形で、長さは110.5mm，幅は48.8mmであった。前方に2本，後方に2本の角があった。また側方隆起が認められ，主部には明瞭な縦走畝があった。このような特徴から，本標本はメガネカスベ *Raja pulchra* の卵殻であると判断した（Ishihara 1987；石原ほか 2005）。

メガネカスベは，ガンギエイ目ガンギエイ科に属するエイの一種である（Ebert and Compagno 2007）。主に沿岸海域に生息し，日本，韓国，中国などの北西太平洋に生息する（Ishihara 1987；石原ほか 2005）。体盤の幅が約1.1メートルあり，幅広の胸鰭が菱形となり，吻は長い。吻の上下にのみ棘があること，両胸鰭に暗い円状斑点が見られることが特徴である。甲殻類，頭足類，硬骨魚などを捕食する肉食魚である。卵生であり，メスは1年中卵殻に包まれた卵を産む（上田ほか，2003）。今後さらに北海道沿岸でのガンギエイ科の卵殻の漂着記録が期待される。

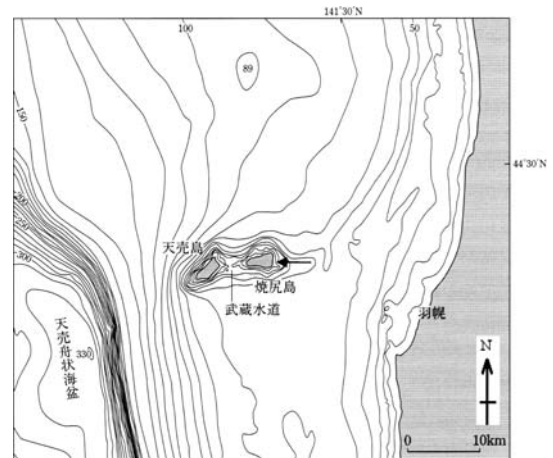


図1 北海道焼尻島の位置（秦1960を改変）。矢印は東浜海岸。



図2 メガネカスベの卵殻

引用文献

秦 光男 1960.5万分の1地質図「焼尻島」及び同説明書，24pp. 地質調査所，東京。
石原 元・本間公也・鄭 忠勲 2005. ガンギエイ目魚類卵殻の比較形態学的研究. 漂着物学会誌 3 : 31-41.
Ishihara, H. 1987. Revision of the Western North Pacific Species of the Genus *Raja*. Japanese Journal of Ichthyology. 34 : 241-285.
Ebert, D.A. and Compagno, L.J.V. 2007. Biodiversity and systematics of skates (Chondrichthyes:ajiformes:Rajoidei). Environmental Biology of Fishes, 80 : 111-124.
上田吉幸・前田圭司・嶋田 宏・鷹見達也 2003. 漁業生物図鑑 新北のさかなたち，645pp. 北海道新聞社，札幌。

(Received July 10, 2020; accepted Aug. 15, 2020)

¹ 〒002-8502 札幌市北区あいの里5-3-1 北海道教育大学札幌校

² 〒004-0006 札幌市厚別区厚別町小野幌53-2 北海道博物館